

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-152	A-169	15-043 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Binge drinking and the risk of suicidal thoughts, plans, and attempts. 大量飲酒と自殺念慮・計画・企図について		
執筆者		
Glasheen C, Pemberton MR, Lipari R, Copello EA, Mattson ME.		
掲載誌		
Addict Behav. 2015 Apr;43:42-9. doi: 10.1016/j.addbeh.2014.12.005.		
キーワード		PMID
大量飲酒、自殺行動、うつ		25553510
要 旨		
目的： うつは自殺の最も大きい危険因子である。過去1年間に850万人が自殺を考えたと見積もられているが、うつの既往があったものはその半分ではない。うつの既往のない者の自殺の危険因子が分かれば、予防・介入が可能となる。本研究は米国を代表する調査を用いて、自殺念慮・計画・企図におけるうつの既往の有無と大量飲酒の有無の関係を明らかにする。		
方法： 2008-2012年のNational Survey on Drug Use and Healthのデータ、約13万件を解析した。性、過去1か月の大量飲酒の有無、過去1年のうつの既往の有無性別に過去1年の自殺行動のリスクを推計した。ロジスティックス回帰分析により自殺行動について性別に、うつの既往の有無と大量飲酒との関連を評価した。		
結果： 男女とも、うつの既往の有無にかかわらず、非大量飲酒群に比べて、大量飲酒群で自殺行動が多かった。非大量飲酒群に比べて、大量飲酒群のオッズ比はうつの既往のない女性では自殺念慮(調整後、OR=1.51 95%CI 1.28-1.79)、自殺計画(OR=1.75 95%CI=1.23-2.48)、自殺企図(OR=2.57 95%CI=1.74-3.79)であり、うつの既往のない男性では自殺念慮(OR=1.25 95%CI=1.04-1.49)であった。男女ともうつの既往群では、大量飲酒は自殺行動と関連が見られなかった(p>.05)。		
結論： うつの既往がない大量飲酒の女性に自殺予防活動を行うことが有用と考える。		